

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所 グループホーム 万富の家

日付 平成19年2月2日
 特定非営利活動法人
評価機関 ライフサポート

評価調査員 ケアセンター介護支援
 専門員経験5年
 評価調査員 在宅介護経験9年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

駅から歩いて10分、ほんの少し郊外の住宅地の一角にある広めの駐車場がある大きめの家と言う印象だ。山あり、田畑あり、周囲には自然がいっぱいの素晴らしい環境だ。「春に来てもらった最高です。すぐにその桜並木が見事です。秋は紅葉もきれいでした。四季折々の変化が楽しめます。立地条件はとても気に入っています」開口一番、管理者が話してくれた。

住宅地の中の道を通って、すぐ近くの公園や里山へよく散歩にいこうだ。安全で安心な絶好の散歩コースだ。子供達の登下校の声、朝夕の出勤、帰宅の音等、日常を身近に感じることができる。男性3人、女性5人の利用者は、比較的軽度の人が多い事もあり、実に元気。ホームの入口は、昼間はいつもオープン、出入り自由だ。職員と一緒に洗濯物を干したり、助け合って自分達の部屋を掃除したりと、利用者も大活躍。

今年3月に開設したばかりのホームだが、管理者は地元出身、利用者も近隣の人が殆んどという事もあり、通常困難とされる地域との交流も上手く出来ている。老人会の人が、丹精込めた菊の鉢植えを40本も届けてくれたと聞いてびっくりした。職員は8人中、男性2名。年齢も、30代、40代、50代とバラエティに富んでいる。利用者、職員、全体のバランスも良い。「職員を子供や孫の様に思ってくれて、職員も自分の祖父母の様な気がしている。もう一つの家はあるけれど、ここも家だからねと、いつも言ってます」管理者の言葉通りの、地域にも認められた大きな家族が、今、生まれつつある。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

開設して日も浅いだけに、管理者も職員も、より良いケアを目指して一生懸命だ。しかし、いきなりあれもこれもしなければは大変だと思う。管理者と職員皆でよく話し合っ、具体的な目標を決め、一つひとつクリアしていったらどうだろう。

毎月様々な行事を企画し、「たより」を通じて家族にも参加を働きかけている。もう一步踏み込んで、家族に協力をお願いしてはどうか? お客様としてではなく、共に利用者を支えるパートナーとしての関係が構築できると思う。

ホーム横の畑は職員が耕作していると聞いた。老人会や近隣のボランティア等に手伝ってもらえないだろうか? 職員の負担が軽減でき、利用者の話し相手してもらいながら新しい外部との交流も生まれると良い。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		

記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か
	「一番気を付けている事、心掛けている事は何か?」と管理者に聞いてみた。「年と共に次第に重度化していくのは仕方ない事かも知れないけれど、とにかく元気でいて欲しい。怪我をしないようにしっかり見守り、その日の体調にも気を付ける様に、職員全員にいつも声をかけています。健康管理には特に気を配っています。職員の中には看護師もいるので、早期発見を心掛けています」との返事があった。同じ質問を職員全員にしてみた。思いがけぬ問いかけに戸惑った様子ながら、「転倒したり、怪我したりしない様に」「元気でいてもらいたい」等、期せずして、管理者や職員から返って来た言葉は同じだった。もとと同じ職場の同僚だった職員も多く、10年来的付き合いで、お互いの気心はよく分かっていると聞いた。管理者と職員のチームワークはとても良い。

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か
	「もう2時半よ、布団を入れなさい!」利用者が職員に声かけて布団を取り入れる。すぐ近くのスーパーへ1日隔に職員と一緒に買物に行く。レジの人に「あれはどこにある?」と聞いてくれたり、「これも買わないの?」と教えてくれたりするそう。食堂のテーブルにどっさり取り入れられた洗濯物の山。気の向いた人が畳み始める。最初はその気がなかった車椅子の人もつられて手伝う。家では殆んど横になり、テレビばかり見ていた94歳の男性も、ここに来て、居室と食堂を行ったり来たりする内に足取りがしっかりしてきたそう。家庭的な日常生活の中で、やりたい事、出来る事を皆です。良い意味での共同生活の相乗効果も出ている。グループホームの良さを感じた。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か
	「年賀状を書いてみようか?」職員が食堂で寛く利用者に声をかける。「もう何年も書いてない」その気がなかった人も、「来年は亥の年よ」と言いながら上手に猪のイラストを書く職員につられて、色を塗り始める。「本年もよろしく」と書いて褒められ嬉しそうなる人も。ところが一人だけ頑として、「わしは書かぬ」と言う人がいた。彼は日頃から本や新聞をいつも手に持ち、学識が自慢だ。「この人は皆分からなくなって可愛相だ。わしはこの人とは話が合わない。日本の世辞は云々」が口癖だ。「まあ、そう言わずに」と誘われ、「日本は戦争で多くの若者を死なせた。だから年賀状は書かぬ」と言い出した。皆は「ん?」、すると職員は、「そうか、気持ちはよく分かった。そんな訳があったんだね。もう言わないよ、見事なフォロー。気持ちに添った声かけに満足と安心の利用者の表情が印象的だった。」

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。
	ホームの玄関はいつも出入り自由、職員は気を付けて見守り施設なし。ある日、ほんの一瞬の隙に利用者がいなくなった。彼女は在宅時時々外へ出て迷子になり、警察から「大きな名札を付けて下さい」と叱られたそう。「事故があったらどうしよう」手分けして捜した。すると周辺住宅の人から、「家の前を歩いていたので引き留めていますが、ホームの方ではありませんか?」と連絡をくれて、事なきを得たそう。それ以降近隣地域との連携の大切さを痛感、地域に溶け込み、地域と共にあるホームになりたいと思ったそう。その後も入口はフリー。安全のため利用者をホームに閉じ込めるよりも、地域との結びつきを強め、地域全体で利用者を見守る事を選択した結果だ。地域の助けを借りつつ共に利用者を支えていく、新しい時代のグループホームの在り方がここにある。